

民族性に関する心理学的考察

2019.2.9

田母神道場門下生

スカピッピパパ (bscppmm@yahoo.co.jp)

本日の概要

- ・道場門下生の、歴史観、政治観については、基本的に異論はない。

- ・ただし、民族性、国民性に関しては、

歴史的な分析

政治的な分析

に加え、

心理学的な分析

の必要性もあるのではないかと、常々考えている。

- ・今回、私のそのあたりの見解をまとめてみました。

参考文献

本日は以下の文献を、かいつまんで説明し、国民性、民族性の理解に対する、心理学的分析の重要性を指摘したい。

(1) ものぐさ精神分析

岸田 透 著

中公文庫

大学生のころ読んだ（もう30年以上前）

(2) 平気でうそをつく人たち ー虚偽と邪悪の心理学ー

M.スコット・ペック 著

草思社

30代前半のころ読んだ（もう20年前くらい）

(3) 韓国の高校歴史教科書 高等学校国定国史

（世界の教科書シリーズ）

三橋広夫 著

明石書店

2015年初春ころ（それでも4年くらい前）

参考文献（1）

ものぐさ精神分析

からの分析

著者は心理学者

心理学者の立場から、心の働きから、社会現象の考察をした書籍。

大学生の頃に読んだ。

結構不安定な年頃に

個人の心の葛藤と、

社会の動静

が連動している、という見解に目を見開かされた記憶があります。

社会って、個人の集まりであり、個人の動きの結果なんです！

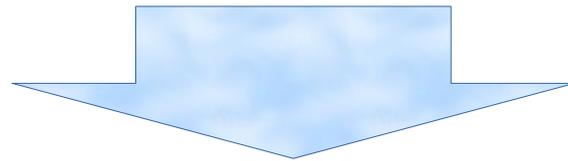
人間の集団に対する心理学的考察

フロイトの創設した心理学は、そもそも社会心理学である。

：集団心理の現象の分析を通じて、個人の心理理解を目指した。

抑圧されて、自己の無意識に追いやられた観念が、消えてしまうわけではないのは、個人も、人間の集団（社会）も同じこと。

個人も、社会も、抑圧された観念のを知ることが、
理解をするためには重要である。



心理学的考察は、人間の集団である、社会、国家、民族の分析にも適応可能である。

日本に対する、心理学的考察

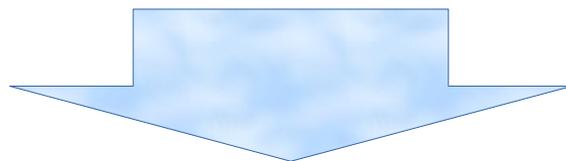
- 日本民族は、精神分裂病的気質を持っていると考察できる。

徳川時代は、外的世界を知らないナルチシズムの自閉的状态。

1853年黒船来航、開国ショック、内的自己と外的自己に分裂。

外的自己：外界への適応、他者との関係性維持を分担

内的自己：願望としての自分、他者と切り離され、非現実的かつ妄想的



外的自己：開国論者が体現

内的自己：尊王攘夷論者が体現

両者の対立を、波乱要因として内部に抱える、社会

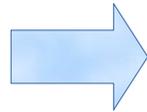


皇国史観を推し進めると同時に、開国を進める。和魂洋才。

大東亜戦争に至る日本の心理学的考察

- ・戦前の日本は、外的自己と内的自己が激しく争っていた。

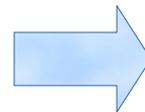
ハルノートがトドメを刺し、内的自己が暴発し、開戦への道を突き進む。



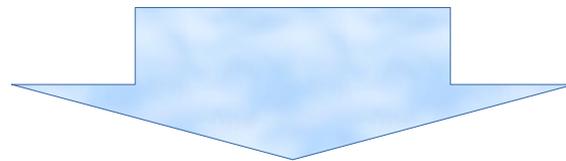
精神分裂病の発作（発狂）

内的自己の暴発であるから、現実感覚から遊離している。

無謀な玉砕戦法、特攻攻撃



敗戦へ



ポツダム宣言、受け入れ

再び、内的自己を抑圧し、外的自己を身にまとうことを決断する。

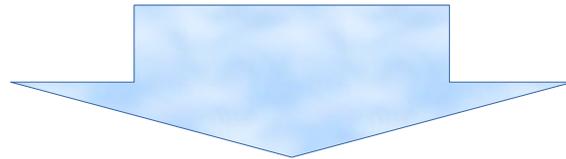
終戦後、分裂病気質者に特有のタイドの逆転が起きた。

内的自己が出ている状態：発病期

外的自己が出ている状態：病前期、寛解期

まとめ（精神分裂気質を持った日本人）

- ・江戸末期 黒船来航 内的自己と外的自己が分裂：精神分裂気質となる。
- ・明治維新から戦前 どうにか外的自己をして、社会の中に適応。
- ・戦中 ハル・ノート 内的自己の暴発。
- ・戦後 再び外的自己を身にまとう。



- ・内的自己と外的自己の分裂は、現代においても根本的には解決していない。

平和主義を装いつつ、周囲の目を異常に気にする外的自己。

自己実現を経済成長に見出した内的自己。

：これ自体バブル崩壊でくづれて、現代日本人は自信喪失状態だけど

本来の自己を取り戻すためには、内的自己と外的自己の統一が必要。

しかしながら、日本には、それはまだ出来ていないと著者は分析。

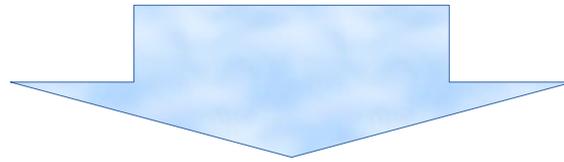
参考文献（2）

平気でうそをつく人たち
—虚偽と邪悪の心理学—

からの分析

邪悪な人の心理学

- 本書は、心理療法カウンセラーによる、邪悪なパーソナリティを持つ人に対する心理学的な考察を行った書籍。
- 世の中には、邪悪な心を持った人が確かに存在する。
- 邪悪な人とは、どんな人か？・・・嘘ばかりを言う人。

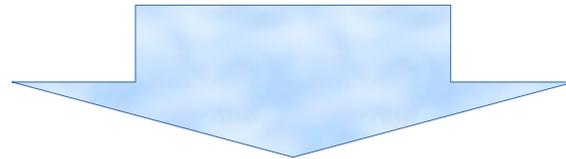


- 何で、嘘ばかり言うか？・・・悪い人では片付かない問題。

これは、心理学的に研究するべき問題であり、
邪悪な人と議論して、発言の真偽を解明するべき問題ではない！

人の邪悪性の特徴

- ・ 他人に対して嘘をつく以上に、徹底的に自分に嘘をついている。
- ・ 嘘をつく理由は、恐怖心。
真実の自分を見つめ、認める勇気を持たない人。
- ・ 人にも自分にも徹底的に嘘をつき、
自分に嘘をついていることを認めることを、断固として拒否する人。



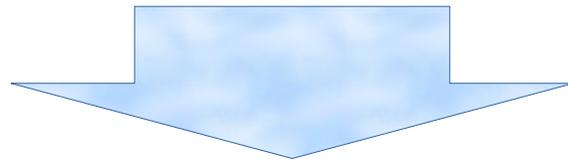
- ・ 幼少期に不幸な生い立ちを抱え、健全な自我の成長が出来なかった人が多い。
それを認めることを断固拒否し、未成熟な自我のまま、
設定したスケープゴートに対し、徹底的な破壊行動をとる！
- ・ 子供の抑うつ症の原因を探っていくと、このような親に育てられていることが、ままあるらしい。

人の邪悪性の心理学的考察の必要性

- ・何れにしても、

嘘つき = 悪人
嘘つき = 犯罪者

で解決する問題ではない。



- ・心理学的に分析すべき現象であり、

強迫神経症
自閉症
病的ナルシシズム

等々と共に、治療を必要とする一種の病気である。

本書のあげる邪悪な人は、こんな人

- ・ 著者は語る。

これにたいして、私が邪悪と呼んでいる人たちの最も特徴的な行動としてあげられるのが、他人をスケープゴートにする、つまり、他人に罪を転嫁することである。自分は非難の対象外だと考えている彼らは、だれであろうと自分に近づいてくる人間を激しく攻撃する。彼らは、完全性という自己像を守るために、他人を犠牲にするのである。

スケープゴートイング、つまり罪の転嫁は、精神医学者が「投影」と呼んでいるメカニズムによって生じるものである。邪悪な人間は、自分には欠点がないと深く信じこんでいるために、世の中の人と衝突したときには、きまって、世の中の人たちが間違っているためそうした衝突が起こるのだと考える。自分の悪を否定しなければならぬのであるから、他人を悪と見なさざるをえないのである。自分の悪を世の中に投影するのである。

- ・ そして、診療室で出会った邪悪な人たちの実例をあげている。

参考文献（3）

韓国の高校歴史教科書
高等学校国定国史
(世界の教科書シリーズ)

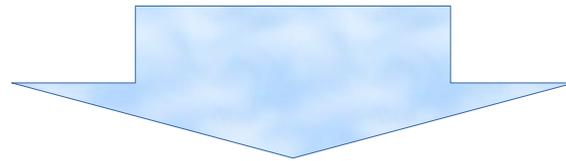
からの分析

韓国の歴史教科書

本書は、韓国の高校の歴史教科書の日本語翻訳版。

：そのねじくれた解釈は驚愕に値するが、
嘘が書いてあるわけではない。

解釈のネガ・ポジがひっくり返っているだけ
＝反日自虐の日本の歴史教科書と同じ



ブログ記事「韓国の歴史教科書を読んできた」 参考

<https://ameblo.jp/bscppppp/entry-12054028233.html>

韓国の歴史（ざっくり）

新羅、百濟、高句麗の三国を新羅が唐の力を借りることで統一



中国一番、朝鮮二番、それ以外は野蛮人と認識



野蛮人のモンゴル人（元）にやられ、属国に！

野蛮人の満州人（清）にやられ、属国に！

野蛮人の日本人（大日本帝国）にやられ、植民地に！

日本が連合国にやられ、南北に分裂！



常に野蛮人（と認識する）外国人に虐げられてきた歴史



幼少期に不幸な生い立ちを抱え、
健全な自我の成長が出来なかった！

邪悪な人としての分析の必要性

朝鮮人の嘘つきは、心理的な病であって、
必要なのは議論ではなく、治療である可能性が高い。



世界は、そういう視線で、
朝鮮民族を考察する必要がある。

韓国の高校歴史教科書 高等学校国定国史
(世界の教科書シリーズ)

三橋広夫 著
明石書店

は、心理学的に分析を行うべき、書籍である。

邪悪な人としての特徴

深層心理的には、それが嘘であることは当人にもわかっている。

一例、竹島領有問題

どちらの言っていることが合理性があるかは、出るところ
(国際裁判所)に出れば、客観的に白黒がつく問題。
韓国はそこに出すこと自体を頑なに拒否している。



それが嘘であることを、**当人も認めている何よりの証拠！**

参考「「慚島伝 漂風の愚民・安 龍福」を読みました」
<https://ameblo.jp/bscppppp/entry-12374719268.html>

私の分析

以下、本書を私なりに分析した記事、これらも参照してください。
この教科書の記述で、一番おかしい記述を次ページに掲載します。

参考 「韓国の歴史教科書を読んでみた」

<https://ameblo.jp/bscpppp/entry-12054028233.html>

参考 「人のふり見て、我がふり直せ」

<https://ameblo.jp/bscpppp/entry-12054027736.html>

参考 「みたび、韓国の歴史教科書について」

<https://ameblo.jp/bscpppp/entry-12054027137.html>

参考 「言っても無駄だと思うけど、

韓国歴史教科書の具体的な記述に対する反論」

<https://ameblo.jp/bscpppp/entry-12054025597.html>

参考 「韓国人必読の書」

<https://ameblo.jp/bscpppp/entry-12054024987.html>

韓国の歴史教科書より転載

日帝強占期にも人口は増えていった。人口調査がある程度行われた1910年代末に国内に居住する韓国人は1700万人程度だった。1930年には2000万人、1942年には2600万人ほどに増えた。ソウル(京城)の人口は1920年に24万人程度であり、1940年には93万人と4倍ほどに増えた。

総督府はソウルに都市改修計画を導入して都市の姿を大きく変えていった。また、景福宮、昌慶宮、慶ヒ（こんな漢字日本にはない）宮のような伝統建築物はむやみに壊され、総督府、京城府庁舎、京城駅舎のような官公庁や公共施設、公園、学校などが相次いで建設され、ソウルの姿は次第に植民地都市の風景に変わっていった。

以下、ブログ記事に掲載した、私の反論

これどういう解釈よ。
そりゃ、伝統的建物を如何に保存しつつ、近代化を達成するかは、現在でも難しい問題だけど、明らかに近代化に向けて開発を行っているって話だし、結果として、人口も順調に増えてるんじゃない。それを「植民地都市の風景」ってどういう解釈よ。

今回の推薦図書に関して

今回、

朝鮮民族を知るためには、心理学的な分析が必要ではないか？

を提示するため、

推薦図書の概要をかいつまんで説明しました。

しかし、この内容は、これら書籍のほんの一部です。

他にも、示唆に富む記述がたくさんあります。

ぜひ、ご一読をオススメしたいと思います。